

交通安全対策

各種安全施設の整備をさらに積極的に推進するほか、特に交通事情の悪化している熊本市中心部については、四千五百万円の事業費をもって電子計算機処理による系統式信号機を設置することになった。また、児童生徒の交通安全教育のため、市町村が交通公園を設置した場合の助成金として二十市町村分、一千八百万円が計上された。

社会福祉対策

①老人ホームの新設など、老人福祉施設関係の予算については、前年の二・五倍を上廻る七千五百万円を計上。
②また身体障害者福祉対策費として前年度の二倍近い一億三百万円を。
③児童福祉施設整備として前年度の二・四倍にあたる八千六百万円を計上するなどその積極的拡充を図ることになった。

住宅建設

二百九十四戸の県営住宅を建設するとともに、住宅供給公社による宅地開発をいっそう促進することになった。
以上のほか保健所の新築及び、保健所の備品の整備をほか保健衛生対策を強化するとともに、新しい行政の分野である消費者行政についても県行政各部門の連携を強化し、運営の活性化を促がす体制を整備することになった。



公営住宅や宅地開発対策も活発になってきている。

県政飛躍への道づくり

当面の県政運営に関する基本的な考え方は以上の四つの柱の中に形づくられているが、四十四年度においては、これらの諸施策の基盤の上立って県政のいっそうの飛躍を期するため次のような前向きの方策を展開することになった。

高原地帯の農業開発

菊池、上益城地方の一部を含む阿蘇高原の農業開発事業は、本年度から本格的な調査に入り、いよいよ阿蘇原野六万ヘクタールの開発は第一歩をふみだすことになった。

町づくり・村づくり

熊本県の人口は四十三年十月一日現在の推計では百七十四万人であるが、県下市町村の悩みは人口の流出にいかに対処するかということだろう。このような過疎問題に対して、性急な解決を期待する

ことはなかなか困難である。生活基盤の整備を中心とした、長く、かつ、広い視野から地域づくりが必要となってくる。県では、ことしからその一段階として、自治振興資金制度を創設し、一億円の基金で、市町村が行なう広域的な建設事業に対して資金面で援助を行なうことになった。

県計画の策定

新空港、九州縦貫自動車道、そのほか水資源開発のための大規模事業、工場の進出、人口の流出と、変わりゆく県の将来を予想し、県の進むべき道を積極的に明らかにするため新しい県計画を策定することにして、そのための経費として六百万円が計上された。(財政課)

県政サロン

最近の県政から

◀ 緑川ダム ▶ 九州縦貫道

☆話し手 福島和夫
(熊本県広報外事課長)
☆きき手 神代信子
(熊本放送アナウンサー)

★ 最近の県政の話題の中から、いろいろとこれから、お伺いするわけですが、けれども、青葉若葉の季節に、県下各地では、建設のつち音が、響いておりますね。四月十九日に緑川ダムの起工式。それから、やはり四月二十六日には、九州縦貫道の植木町インターチェンジ予定地で九州縦貫道の着工式がそれぞれ行なわれましたね。

☆ きょうは、そういった建設の話題をわかりやすくお話しただきたいと思っております。

☆ そうですね。緑川ダムにしましても、自動車道にしましても、私たちはいろいろの話題として、知ってはいますけれど、どんなものだろうかと、どうして作るのだろうかと言うことになると...

☆ そこで、最初に緑川ダムのことからですが、まず場所は...

★多目的な緑川ダムの建設

☆ 緑川ダムができます場所は、下益

城郡の砥用町、花定野(けじょうの)というところですよ。

昭和三十三年頃から建設省でダムの予定地を調査されてきてね。

★ 最初は鮎瀬だとか金地だとかいろんな場所をボーリングしてみただけでも地質が良くなく、最終的に花定野がいちばんいいということが決まったわけですよ。

☆ 大きなダムだということは、聞いておられますけれど、どれ位の大きさですか。

☆ そうですね。大体、県内でいちばん大きな市房ダムとほぼ同じようなダムです。高さが七十七メートルですが、例えてみますと、県庁舎の一・五倍ということになります。

★ 上流からの水をしきる所、あそこの高さですね。

☆ そうですね。それから横幅ですが、二百九十五メートル、約三百メートルです。そのダムの中にたまります水の量が、四千六百万立方メートルです。

★ とこころでいま、大体どんな工事が

行なわれているんですか。
☆ いま、ダム本体の基礎工事をやっています。これができると、ダム工事の六〇％ができたことになるわけなんです。大体ダム自体は、四十六年の三月に完成いたします。

★ すぐ発電ということになりますか。
☆ 四十五年の暮には発電できるといふことです。

★ これ程大きなダムですけれども、どうして、あの場所にこのダムを作らなければいけないようになったのかということですか。
☆ それはですね、緑川という大変長く大きな川があるわけですが、この流域には、毎年洪水による被害があるわけですね。これを何とか防ぎたい。洪水を調節しようというのがこのダムを作る第一のねらいなんです。

★ ところが、大きなダムを作るのにただそれだけでは、もったいないじゃないかということですね。つまりもう少し、水を利用して、いろんな目的に使えないかということですね、緑川の水の総合開発ということが計画されたわけですよ。

★ ですから、洪水を調節するということが大きな目的ですけれども、それと合わせて、ためた水を利用して田畑のかんがい用水として使う。さらにもうひとつ、発電にも利用するという三つの目的をまとめておきますね。

★ できましたら、どういふふうに変りますか。
☆ 毎年、洪水で被害が起っておりまして、平均すると、四億六千万円位あったということですよ。

なくなるということですよ。

★ 現在でも緑川の水でかんがいをしていますが、これをずっと拡大、延長して、最終的には天草の大矢野島まで水を送ってかんがいができることになると、大体、水田にしましてね、六千ヘクタール。それから、果樹関係、みかんの宇土半島ですね。ここにも水を送ります。南の方大矢野島までの辺はずっと果樹があります。これが、大体、三千ヘクタール、合わせて九千ヘクタールかんがいをするといいことです。それから発電ですが、第一、第二という二つの県営発電所ができます。そこで、県内でいちばん大きな発電量、約三万四千キロワットといわれておりますから、いまあります市房発電、藤本発電を合わせた程度の大きな発電ができるということですよ。

★ とにかく、県下最大のダムということになりますね。

☆ ええ、そういうことになります。★ これ全部末端まで計画がいきわたってできるのは、何年位でしょう。

☆ ダム自体は、四十六年の三月にはできるんですけども、国営の総合開発の事業が、改めて計画されてきますので、この計画が完成するのは昭和五十五年頃になりましようね。しかし、かんがいするということはすでにやっていることです。それから、新たな拡張計画から末端まで完全にできるものが、それ位だということですよ。

★ たいへん遠大な計画ということですね。
☆ 水の開発ということは非常に長かかります。大体二十年かかるというわれています。

★ だからこそ、緑川ダムは、とって